

- ・ EMCC (OMS) 修正用更新モジュールの入手と適用
- ・ 配布用 (OMA) 管理エージェント・ソフトウェアの入手

この設定と動作は、OMS サーバーに対して行う行為です

#### 参照資料

[https://docs.oracle.com/cd/E74608\\_01/131/EMADM/self\\_update.htm](https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMADM/self_update.htm)

[https://docs.oracle.com/cd/E74608\\_01/131/EMBSC/install\\_agent\\_new.htm](https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm)

#### EMCC (OMS) 修正用更新モジュールの入手と適用

初期インストール時の入手と適用

更新に対してソフトウェア入手と適用

#### 配布用 (OMA) 管理エージェント・ソフトウェアの入手

プラットフォーム OS について

初期インストール時の入手と適用

更新に対してソフトウェア入手と適用

## 初期インストール時の入手と適用 (EMCC (OMS) 修正用更新モジュール)

OMA のインストール作業途中のソフトウェア更新 (Software Updates) の処理で行われるので、「OMA のインストール」についての資料を参考にすること

## 更新に対してソフトウェア入手と適用 (EMCC (OMS) 修正用更新モジュール)

[https://docs.oracle.com/cd/E74608\\_01/131/EMADM/self\\_update.htm](https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMADM/self_update.htm)

### 21.3 更新の適用

#### 【オンライン・モードでの更新の適用】

##### 21.3.1 オンライン・モードでの更新の適用 より

1. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」
2. 「更新の確認」をクリックして、新しい更新があるかを確認するジョブを発行する  
  
確認メッセージが表示されたら、内容を確認し「OK」をクリックして閉じる
3. 2.で発行した更新の確認を行う「ジョブ」が完了してから  
エンティティ・タイプに、「目的のソフトウェアのタイプ」を選択し、アクションに「開く」を選択する  
  
そうすると、選択したエンティティ・タイプに対して、「更新があったソフトウェアに対するリスト」のページが表示される
4. 表示された使用可能な更新のリストから、更新を行うソフトウェアを選択 (同時複数選択可) した後、「ダウンロード」をクリックする
5. 「スケジュール・ダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されるので、更新ソフトウェアのダウンロード日時等を指定する  
指定項目： 即時  
後で(指定した時刻)  
ダウンロードが完了したとき通知が必要か
6. 「選択」をクリックする  
更新されたソフトウェアをソフトウェア・ライブラリにダウンロードするための Enterprise Manager ジョブが作成され発行される  
  
ダウンロードが完了すると、確認ページが表示されるので、内容を確認して閉じる

7. ダウンロードされたソフトウェアに対しては、インストールで使用できるように適用させる

〔メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」で、  
『自己更新ホームページ』を表示させる〕

※ ページは自動的にリフレッシュされない。

ステータスを確認するためには、リフレッシュ・アイコンをクリックする

リストのステータスを「ダウンロード」から「更新」に変更した後、「適用」をクリックする

8. この後の操作は、エンティティ・タイプ（ダウンロードしたソフトウェアのタイプ）によって異なる

【コネクタ、診断チェックおよびコンプライアンス・コンテンツの場合】

「適用」をクリックすると、Enterprise Manager の更新がインストールされる

これ以外のアクションは必要なし

【プラグインの場合】

プラグイン・デプロイ・ページにリダイレクトされる

【プロビジョニング・バンドルの場合】

Enterprise Manager コンソールを終了し、端末を介して Opatch および他のコマンドを実行し、OMS を再起動する

## 【オフライン・モードでの更新の適用】

### 21.3.2 オフライン・モードでの更新の適用 より

1. メニュー・「設定」 → 「プロビジョニングとパッチ適用」 → 「オフライン・パッチ」 ~~Cloud Control がオフライン・モードに設定のこと~~
2. 「接続」の設定を「オフライン」に変更する
3. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」で、『自己更新ホームページ』を表示させる

ここで、「更新の確認」をクリックする

これにより、「すべての更新のカタログをダウンロードするためにアクセスが必要になる URL」が表示される

4. インターネット接続できるコンピュータから、メッセージに記載されていた URL にアクセスして **カタログ・ファイル** をダウンロードする
5. ダウンロードしたファイルを、~~更新のデプロイ先である~~ Oracle Management Service ホストへコピーする

6. `emcli import_update_catalog` コマンドを実行して、Oracle Management Service インスタンスへ、ファイルをインポートする

- ・カレント・ディレクトリを<OMS\_HOME>へ変更する

```
cd <OMS_HOME>
```

- ・インストール・ユーザーとして、EM CLI へログインする

```
./emcli login -username=sysman
```

- ・EM CLI を同期します。

```
./emcli sync
```

- ・更新する Oracle Management Service インスタンスに、アーカイブをインポートする

```
./emcli import_update_catalog -omslocal -file=
```

<ダウンロード ZIP ファイルへのパス>

7. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」で、『自己更新ホームページ』を表示させ、リフレッシュ・アイコンをクリックして再表示（リフレッシュ）させる

「使用可能な更新」列が、「更新」となっていることを確認する

表示が「更新」となったソフトウェアの行を選択した後、

「アクション」メニューから、「ダウンロード」をクリックする

これにより、URL および更新の手順を含むメッセージが表示される

8. ダウンロードは、6.の操作で完了しているため、更新を適用させるために、「アクション」メニューの「適用」をクリックします。

## 配布用 (OMA) 管理エージェント・ソフトウェアの入手 プラットフォーム OS について

[https://docs.oracle.com/cd/E74608\\_01/131/EMBSC/install\\_agent\\_new.htm](https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm)

6.2.2.4 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用してスタンドアロン管理エージェントをインストールするための管理エージェント・ソフトウェア前提条件を満たす  より

管理するデータベースのホストのプラットフォーム OS に合わせた管理エージェント・ソフトウェアを**事前にダウンロード**しておく必要がある

なお、管理エージェント・ソフトウェアは、動作するプラットフォーム OS ごとに異なるため、ダウンロードが必要な管理エージェント・ソフトウェアは管理対象データベースを**動かす OS の全種類分**を準備する必要がある

6.2.2.4.1 オンライン・モードでの管理エージェント・ソフトウェアの取得を参考にして、「管理エージェント・ソフトウェア」を**手動でダウンロード**する必要がある

### 例外)

**OMS** がデプロイされているプラットフォーム OS と**同一のプラットフォーム OS** で管理エージェントが動作する場合には、すでにダウンロードされているので、手動でのエージェント・ソフトウェアのダウンロードは不要となる

このため、このプラットフォーム用の管理エージェント・ソフトウェアは手動でダウンロードする必要はない

これ以外のプラットフォーム OS で使用する管理エージェント・ソフトウェアは手動でダウンロードする

たとえば、**OMS** がデプロイされているプラットフォームが **Linux x86-64** の場合、**OMS** ホストで **Linux x86-64** プラットフォーム用の管理エージェント・ソフトウェアがデフォルトで使用可能となる

注) この場合でも、自己更新の設定は必要である

## 初期インストール時の入手と適用

(配布用 OMA 管理エージェント)

まず、必要な OMA 管理エージェントをダウンロード、および、適用を行う

次に、4 ページ前に記述した『更新に対してソフトウェア入手と適用 (EMCC (OMS) 修正用更新モジュール)』と同様の手順で、更新ソフトウェアを先に適用したソフトウェアに反映させる

その後、「エージェント・ゴールド・イメージを使用した OMA (Oracle Management Agent) のインストールの方法」で、OMA ホストに配布 (インストール) する

## 更新に対してソフトウェア入手と適用

(配布用 OMA 管理エージェント)

4 ページ前に記述した『更新に対してソフトウェア入手と適用 (EMCC (OMS) 修正用更新モジュール)』と同様の手順で、更新ソフトウェアを先に適用したソフトウェアに反映させる

その後、「エージェント・ゴールド・イメージを使用した OMA (Oracle Management Agent) のインストールの方法」で、OMA ホストに配布 (インストール) する